

発達勉強会「連携の視点から支援のあり方を考える」

講師：瀬戸山 悠先生

○児童発達支援の役割と内容

- ・子どもの健康状態・障害の特性に配慮しながら、子どもらしい活動を通じて子ども自身の自尊心やアイデンティティを育てる。
- ・育てにくさを感じる家族に対し、子育て支援を行う。
- ・子どもや家族のニーズに応じ「発達支援」「家族支援」「地域支援」を総合的に提供する。

○多職種連携/協働の内容

「専門職による支援」には、障害のある子どもの「子育て支援＝どのように育てていくか」という共通理念や人間観があることが望まれる。

子どもの目線でメッセージを読み取り、子どもが示す行動・反応の意味は何かを確認しながら、アプローチの方向性を検討・見極めていくことが大切。

○それぞれの専門性を活かす

目標 遊びへの参加	<u>保育士</u>	<u>リハスタッフ</u>
	→ 子どもが主体的に遊べるように 遊びを工夫。	「姿勢」「道具を使える」「見通し」 「理解しやすい指示」など子どもが遊びやすいように設定。

発達支援においては、**それぞれの職種が専門性を発揮しながら支援する**。その中で子どもが遊びを積み重ね、「できた！」という体験を増やしていくことが大切。

○共通した役割を担う

職種での役割は違うが、実践の基盤が異なるだけで、ある職種が特定の役割に限定されるのではなく、複数の職種が重なり合う業務もあることを知る。また自分が出来ないことを知り、自分が出来ることに関わる知識を広げていくことが必要。子どもと家族の状態や課題の性質により、専門職としての役割の強みを生かしつつ、役割を拡げて柔軟に対応することが大切。

○連携の課題

子どもと個別で関わることが多いと、自分の専門分野にとらわれ考えが偏りがちになる。その為、多職種から情報を得て、広い視点を保ちながら目標を設定する必要がある。

○行動の背景・視点の違い

子どもの行動の背景はさまざま。どの背景に着目するかで工夫する内容も、望ましい行動も全く違うものになる。各専門職で子どもの見え方・関わりはさまざま。だからこそ、色々な視点から子どもを見ることができ、新しい「気づき」が生まれる。

◆連携のポイント

専門職それぞれでアプローチ方法は異なるが、目指すゴールは同じ。それぞれの専門性を発揮しながら、子どもと家族のニーズに応じた支援を行うことが大切。